

再考現学／Re-Modernologio phase2：観察術と記譜法

2011年10月23日（日）－12月18日（日） 10：00－18：00

会期中無休／入館料：無料

青森公立大学 国際芸術センター青森

<参加アーティスト>

富井大裕 （とみい・もとひろ）

彫刻／新潟出身・東京在住

丹羽良徳 （にわ・よしのり）

パフォーマンス／愛知出身・東京在住

朝海陽子 （あさかい・ようこ）

写真／東京出身・神奈川在住

パル・ペーター （PÁL Péter）

野外インスタレーション／ルーマニア出身・在住

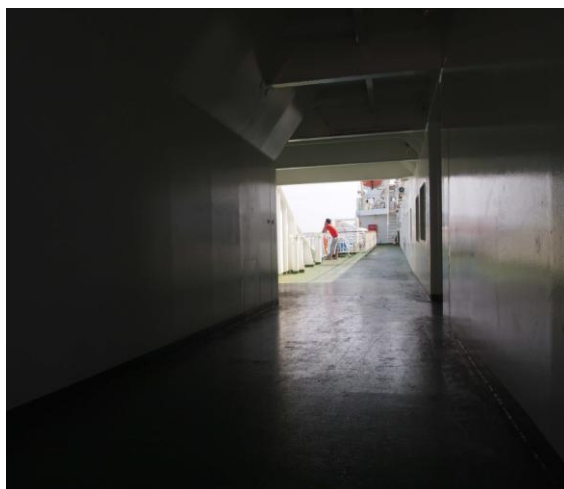
<オープニングイベント>

・アーティストトーク

10月23日（日）14：00－15：30／無料

・市民ボランティア「AIRS」主催のオープニングパーティー

10月23日（日）15：30－16：30／500円



朝海陽子 「passage」 2011 国際芸術センター青森

展覧会概要

今年度青森公立大学国際芸術センター青森（ACAC）では、青森県出身の建築家今和次郎が提唱した「考現学」をキーワードに、現代の社会構造や生活文化、地域の日常生活と芸術の関係のあり方をアーティストの創作活動を通じて探求し再考する展覧会『再考現学』を2011年7-9月、10-12月、2012年1-3月の3期に分けて開催します。

第2期となる phase2 は「観察術と記譜法」というテーマの下、既製品を組み合わせ「彫刻」として発表する^{とみいもとひろ}富井大裕、社会の出来事に自ら関わる「行為」を作品とする^{に およしのり}丹羽良徳、ある場所に流れる時間や、撮影する人とされる人／物の関係性を写真に写しこむ^{あさかいようこ}朝海陽子、眼前の風景に手を加えることで新しいイメージを作り出すパル・ペーターの4人のアーティストが参加します。この4人は表現方法こそ異なりますが、社会や人々、物を観察する目線や、それを作品として表現する手段について、独自のやり方を持っているという点で共通しています。

今和次郎もやはり独自の視点で人々の日常生活を観察し、それを個性的かつ魅力的なドローイング（線で描いた絵）で記録していました。本展では、今が考現学で見せた独自の観察術と記譜法（記録法）を、現代のアーティストがどのように世界を見つめ、それをどう理解し作品として記録していくのかということになぞらえて、ものの見方や作品としての表現の可能性を探究します。

タイトル：「再考現学／Re-Modernologio」 phase2:観察術と記譜法

会 期：2011年10月23日（日）-12月18日（日）10:00-18:00（会期中無休）

入 館 料：無料

会 場：青森公立大学 国際芸術センター青森 展示等ギャラリーA, B

主 催：青森公立大学 国際芸術センター青森

助 成：平成23年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

協 力：青森県立美術館、AI KOWADA GALLERY、日本大学芸術学部、無人島プロダクション、AIRS、ACAC 学生サポーター

お問い合わせ

青森公立大学 国際芸術センター青森

TEL:017-764-5200 FAX:017-764-5201 MAIL: acac-1@acac-aomori.jp

ホームページ: <http://acac-aomori.jp/>

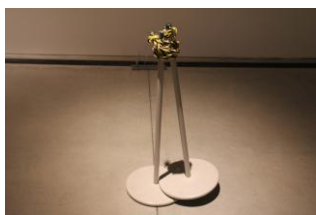
担当学芸員: 服部浩之

アーティスト紹介

富井大裕 : 発見し、組み合わせる「彫刻」



「waste basket and waste paper (orange)」
2011 プラスチック製ゴミ箱、紙 21×h. 28cm
撮影：柳場 大 ©Motohiro Tomii



「Found composition 2011092312 "つながれた2つのボール"」
2011 国際芸術センター青森

富井大裕は、既製品を組み合わせた作品を「彫刻」として発表しています。彼は既製品が持つ機能に着目し、それを取り出すことから制作の糸口をつかみます。しかし結果的に私達が目にする彼の作品は、不思議なことにモノが持つ機能よりもモノの形や色の面白さや美しさが際立つようになります。

本展では、ACCACの中で彼が発見した既製品の組み合わせを展示室に配置しています。一見作品とは思えない数々の「モノ」を見て、なぜこれが芸術作品なのかと戸惑う人の方が多いかもしれません。しかし、共に展示してある彼の書いた指示書を読むと、それはよく考えられた巧妙な組み合わせだということが分かります。私達が何気なく置いたり並べたりするモノの組み合わせの面白さを発見するアーティストの目線、そして「ただのモノ」がアーティストによって展示室に並べられることでどう見えるのかという自分自身の目線の変化、という2種類の「ものの見方」を楽しめることでしょう。

1973 新潟県生まれ

1999 武蔵野美術大学大学院造形研究科彫刻コース修了

【近年の主な個展】

2011 「色と形を並べる」、ラディウム - レントゲンヴェルケ、東京

2010 「STACK」、NADiff Gallery、東京

2009 「かみの仕事」、Art Center Ongoing、東京

2008 「企画展＝収蔵展」、アーカス・スタジオ、茨城

【近年の主なグループ展】

2011 「MOT アニュアル 2011 Nearest Faraway/ 世界の深さのはかり方」、東京都現代美術館、東京

2010 「富永大尚＋末井史裕＋富田大彰＋森井浩裕＋末田史彰＋森永浩尚」、switch point、東京

「近藤恵介・富井大裕 あっけない絵画、明快な彫刻」、Gallery Countach Kiyosumi、東京

丹羽良徳 : 「行為」で表現する



「自分の所有物を街で購入する」2011
パフォーマンスのドキュメントビデオ (3チャンネル)
7' 06 min, 9' 34 min, 6' 06 min

丹羽良徳は、社会の中で人々が当たり前だと考えていたり、見落としていたりする常識や共通の認識、あるいは社会の体制などに目を向け、それに自ら関わる「行為」を作品としています。彼の作品はその行為を記録した映像を中心としており、行為自体が一見無意味だったりユーモラスであったりしますが、私達が知っていると思いついでいる社会や世間といったものが、一体どのような実体を持つものなのかを問いかけるものでもあります。



「八甲田山の頂上に海底で捨てた石を積む」
2011 国際芸術センター青森

本展では、八甲田山から陸奥湾に転がり落ちた石を八甲田山頂に戻そうと奮闘する彼の姿を捉えた、新作の映像を中心に展示します。

1982 愛知県生まれ

2005 多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科卒業

【近年の主な個展】

2011 「共同体の搜索、もしくはその逃亡劇」、Ai Kowada gallery、東京

2010 「Communicating with thieves」、HIAP project room、ヘルシンキ、フィンランド

「複合回路 vol.3 アクティヴィズムの詩学」、ギャラリーαM、東京

「解決策なし、それでも大乱闘」、Ai Kowada gallery、東京

2009 「Transformingpuddle A to puddle B」、Art in General、ニューヨーク、アメリカ

【近年の主なグループ展】

2010 「Utopia of exotic」、Pavilion Unicredit、ブカレスト、ルーマニア

2009 「The Arts of Togetherness」、Gendai gallery、トロント、カナダ

朝海陽子 : 目に見えないものを写真に写しこむ



「バンビ、ベルリン」2006 / "Bambi, Berlin" 2006
from the series sight
courtesy of the artist and Muiin-to Production



タイトル未定 2011 国際芸術センター青森

朝海陽子は、2011年に初の写真集「sight」を出版。「Sight」では人々が自宅で映画を見ている様子が写し出されています。写真の特性に、瞬間を切り取るということがあります。彼女の写真もまた、ある場所に流れる時間を切り取ります。しかしその作品の中には、その写真が撮影された時間と共に、映画という物語の中のもう一つの時間も含まれています。更に「sight」では、映画を見る人を撮影者である彼女が見るという、撮影する人とされる人の間に交わされる「sight=視線」のやり取りがあった上で撮影されており、見ることと見られること、撮ることと撮られること、という撮影者と被写体の関係性を暗示する作品でもあります。

本展では8月から青森各地でリサーチを重ね、「天気予報」や「風」をキーワードに作品を制作しています。ある特定の時間・特定の場所の情報である「天気予報」や目には見えない「風」。これらが彼女の新作にどのような様子を表れてくるのでしょうか。また、彼女にとってこの滞在制作は青森を訪れる初めての機会となりました。彼女は初めての土地とどのような関係を結んだのでしょうか。

1974 東京都生まれ

1988 ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン写真学部卒業

【近年の主な個展】

2011 「Conversations」、無人島プロダクション、東京

2008 「sight」、ユニカミノルタプラザ、東京

2007 「Trigger」、ツアイト・フォト・サロン、東京

【近年の主なグループ展】

2009 「Re:Membering-Next of Japan」、Doosan GALLERY、ソウル

2008 「日本の新進作家 Vol.7 オン・ユア・ボディ」、東京都写真美術館、東京

【写真集】

初写真集「Sight」刊行 (赤々舎)

パル・ペーター : 風景を変える



「アナモルフォーシス3 (歩ける彫刻)」
Anamorphosis3, The sculpture you walk on
2005 国際芸術センター青森



「The turn of the waters」
landscape intervention in Transylvania,
トランシルヴェニア、ルーマニア、2007

パル・ペーターは2005年のACACのアーティストインレジデンス「かわりゆく世界で」にも参加した美術家です。今回はACACでの2回目の展覧会参加になり、前回の滞在時に制作した作品「アナモルフォーシス3 (歩ける彫刻)」の修復・再制作と、新作を制作しています。「アナモルフォーシス3 (歩ける彫刻)」は地面に色の異なる石を円形に敷き詰め、それが中央に立つシルバーの円柱に映ると人の顔が見える、という作品です。

新作では、眼前の風景をある装置を通して見せる（それは歪んだ風景として見える）ものを構想しており、「歪んだ像」が両作品のキーワードになっています。作品を通じて、鑑賞者はそこにある風景を注意深く観察しようとするでしょう。また、彼はルーマニアで修復士としても活動しており、11月26日には教会や美術品の修復についてのトークを開催します。

1961 ルーマニア生まれ

1989 ブカレスト美術アカデミー卒業

【主な個展】

2008 Studio 5B Targu Mures、トウルグムレッシュ、ルーマニア

2003 I GONG Gallery、手ジョン、韓国

2000 Cultural center of the Hungarian Republic, ブカレスト、ルーマニア

I GONG Gallery、テジョン、韓国

1998 「In Situ」、Cellar Gallery、トウルグムレッシュ、ルーマニア

【近年の主なグループ展】

2011 ArtGranary International Exhibition at Aggtelek National Park、ハンガリー

2009 Gallery Manos Libres、GALERIA 大正蔵、鳥取

Nerja Modi International Art Camp、ジャイプール、インド

2008 Geumgang Nature Art Biennale、広州、韓国

関連イベント

○千葉奈穂子版画ワークショップ

「版どめいど・スター☆—手作り版画でブロマイドをつくろう—」

11月13日（日）13：30—15：30／300円

○志賀理江子アーティストトーク

「螺旋海岸—過去、現在、未来から解き放たれて」

11月19日（土）、20日（日）13：30—15：30／無料

○パル・ペーターアーティストトーク

「トランシルヴァニアの文化遺産：その保存と修復について」

11月26日（土）13：30—15：00／無料

○丹羽良徳ワークショップ

「泥棒に手紙を書く」

11月27日（日）13：30—15：00／無料

○朝海陽子写真編集ワークショップ

「後雪。/snow later, good」

12月3日（土）13：30—15：30／無料

○富井大裕ワークショップ

「ACACで自分の彫刻をみるける」

12月11日（日）13：30—15：30／無料

○学芸員による鑑賞ツアー

・ギャラリートツアー

11月5日（土）11月23日（水）15：00—16：00

・ファミリーツアー

12月4日（日）15：00—16：00

・月の光ツアー

11月19日（土）、12月18日（日）18：00—19：00